



テーマ2 本業による社会貢献

日本は、少子高齢化による労働力不足などの前例のない数多くの社会課題に直面しています。そうしたなかで、ドン・キホーテグループは、本業である総合小売業の事業活動によって生まれた利益を、適切な納税を通じて社会に還元することが、最たる社会貢献であると考えています。同時に、本業を活かした社会課題の解決をめざし、社会の発展にも貢献していきます。事業活動による企業価値の向上と社会の課題解決を両立させ、「本業による社会貢献」を積極化していきます。

ドン・キホーテグループが考える社会課題



日本では年間約4億トンの産業廃棄物が排出されているといわれ、廃棄されたごみの処理にかかるエネルギーや温室効果ガスの排出量も多く、環境に大きな負荷がかかっています。



超高齢化社会に突入している日本では、生産年齢人口の減少のほかにも、高齢者の地域コミュニティからの孤立や、病気や怪我をする高齢者の増加なども課題です。



働き方の多様化や女性の社会進出により、保育園への入園希望者が増えていますが、希望者に対する保育園の数が足りておらず、待機児童の問題が発生しています。

捨てられる製品を根本から減らすオリジナル商品の開発

日本における衣料品の年間廃棄量は約100万トンといわれており、そのうちの約7割が焼却・埋立処分され、リユース(再使用)やリサイクル(再資源化)につながっていないのが現状です*。当社グループはこの問題に着目し、独自のオリジナル商品を開発しました。

2017年3月から、ドン・キホーテプライベートブランド「情熱価格PREMIUM」にて、「スライドソールチェンジ」の発売を開始。これは、工具不要でヒール交換がワンタッチでできる特許申請技術を備えたビジネスシューズで、お客さまに1つのシューズを長く使っていただくこと

で、シューズの廃棄量や焼却時に排出されるCO₂を根本から減らす取り組みを進めています。

* 出典：中小企業基盤整備機構調査



累計販売足数
16,200足
(2017年3月～2018年6月)

4ヵ月間のテスト歩行と、第三者検査機関の耐荷重テストを10万回クリアし、安全性と耐久性を実証しています。

地域コミュニティの形成やシニアの健康問題に貢献

高齢化や過疎化などにより地域コミュニティの活力低下が叫ばれるなか、地域活性化の一助となるよう、本社を構える東京・中目黒の社屋では、2010年から毎年「目黒川お花見会」を開催しています。2018年3月下旬から4月上旬の15日間で、地域の高齢者施設や町内会の皆さま、パートナー(お取引先)さまなど約4,500人をお迎えし、栈敷席で桜をご堪能いただきました。

また、「MEGAドン・キホーテ八千代16号バイパス店」では、毎週水曜日に「やちよ元気体操の会」を実施しています。この体操は、千葉県八千代市が転倒予防を目的に考案したオリジナル体操です。毎回40人以上の方にお集まりいただき、高齢者の健康問題やコミュニティづくりに貢献しています。



ドン・キホーテ店舗内保育園「ドンキッズ」を開設

保育園不足や待機児童の問題は、国の対策や新制度の導入などにより少しずつ改善されていますが、いまだ全国には約2万人*の待機児童が存在しています。この問題を解決するため、従業員向け店舗内保育園「ドンキッズ」の設置を推進し、MEGAドン・キホーテ5店舗に開設して

います。今後も待機児童問題の解消と、地域、保育園、店舗が一体となった子育て環境づくりに挑戦していきます。

* 出典：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」(2018年4月1日時点)

